

南原小学校だより



平成26年5月23日（金）

5月21日（水） 全校朝会

運動会 縦割り活動 今、絆を深める時

校長 向 田 聡



山田教頭の講話

全校朝会はいつも歌から始まります。今月は『運動会の歌』です。「僕ら～は輝く～太陽のように～・・・フレイフレ赤組ゴーゴーゴー！」と赤組の歌詞を赤組が白組の歌詞を白組が歌い、最後は同時にそれぞれの歌詞を歌い競い合うような歌です。覚えてたの1年生もみんな大声を張り上げ、体育館中に元気な歌が響き渡りました。

運動会、縦割り班で行われる『ぴよんぴよんリレー』の説明も行われました。まさに今『チーム南原小』として一丸となって頑張る時です。そして大いに絆を深めてもらいたいと思っています。

そんな中、山田教頭から貴重な教え子の作文を紹介してもらいました。

ゼロからの出発

※ 読みやすいように原文より漢字を増やしています。

「もうちょっとで手術よ。」

病棟の看護婦さんが、僕に言いかけている。僕は、不安でため息の混じった声でどこか答えた。

「はあー、とうとうか。」

僕は、生まれつき心臓が悪い。そのことを幼稚園の時家族から聞いた。僕は何か悪いことを聞いたような気がした。たぶんその時（そんなこと嘘だ!）と思ったようなことを覚えている。

1年生の時、生まれて4ヶ月目に心臓の手術をしたことも聞いた。確かにぼくの胸には手術の跡がある。家族は僕にみんなと同じような運動はできないから注意しろというようなことを言ったのだ。僕はそれ以来、疲れれば休み、体育の時間も見学することが多くなった。

あれから11年たった。僕は6年生になり、今年の春、山形大学の付属病院で診察を受けることになった。長い間待ってみてみらい、先生がおっしゃった。

「これは手術をしなければいけない。今は技術が進歩しているから大丈夫だからね。」

僕はそのことを自分の耳で聞いた時、怖くなりとてもがっかりした。でも、やらなければならないなら、頑張ろうとも思うようにもした。

今、僕は手術を待っている。そばにいるおばあちゃんに僕は何度も何度も聞いた。

「おばあちゃん、僕は手術をして死んだらどうしよう。」

【裏面につづく】

おばあちゃんは強く言った。

「大丈夫だよ、頑張れ頑張れ〇〇男」

同じ病室にいる赤ちゃん、2歳と3歳の子、お母さん達も僕のベッドにやってきて励ましてくれた。

「お兄ちゃん、ガンバレ！」

「大丈夫、お前は頑張れる。」

というおばあちゃんの声聞きながら僕は麻酔の薬が効いてきてボーッとなっ

てきた。僕がそんな時思い出したのは、学校の友達顔だった。そして、自分の昔のことだった。僕は目を閉じた。（みんな今何をしているかな。何を考えているのかな。僕のことを考えていてくれるかな。）小っちゃい頃からあまり走れなかったな。検査がたくさんあったな。やっとな手術か・・・）

そして僕は夢を見た。真っ白な霧の中だった。音もなく川が流れていた。誰もいないどうしたんだろう。

僕は目を開けた。僕の体にはたくさんの管や線がついていた。それを見て僕は恐くなった。だんだん自分が自分じゃなくなっていくような気がしてきた。8時間半僕は眠っていたそう。手術は成功したということを知った。それから、離れて住んでいる母も来てくれたそう。（よかった。）僕は集中治療室で今度は元気になるよう頑張ることにした。3日でだんだん管や線がとれていって、点滴だけになった。

でも、それからまた嫌な事が起きた。僕の足に血が流れて来なかったのだ。僕の足はしびれ、感覚がなくなってきた。（これが僕の足なのか。）僕はまた泣きたくなってきた。そのうち、担任の山田先生がお見舞いに来てくださった。みんなの励ましの手紙と千羽鶴を手にした。僕はなぜかとても心強くなってきた。手紙はクラスの友達だけでなく、学年全部の友達のものだった。僕は、何度も何度も読み返した。それから3週間して退院することができた。

この夏、僕の夏休みは手術と自分との戦いだった。そして、自分でもよく頑張れたと思う。学校では、疲れると保健室で休ませてもらう生活だが、なるべく休まず登校している。そのご褒美か。僕は10月13日、14日の修学旅行に行くことになった。父がついて来てくれることになった。最初はみんなの中に父がいると恥ずかしいなと思ったけれど、いつも父がいてくれると思うとうれしくなってきた。いつも仕事で忙しい父だが、

2日間はずっと僕のものなのだ。車でバスの後をついてきてくれ、見学地ではぼくと一緒にゆっくり歩いてくれたり、疲れると僕を車に乗せてバスの後を走ってくれたりした。友達もいつも、「大丈夫か？疲れてないか？」といつも気をつかってくれた。◇◇君は日光江戸村では、グループを離れて僕につき合って行動してくれた。僕はこの旅行に行くことができただけでなく、友達や先生はじめ多くの人の温かさを知ることができたことがとても良かったと思った。



僕にはもう1つ大きな壁がある。あと2ヶ月するともう一度手術しなければならないのだ。僕は、僕を支えてくれた人達のためにももう一度頑張ろうと思っている。（僕一人で頑張るんじゃない。みんながいるんだ。）そして、元気な体になってみんなと一緒に運動したり遊んだりしたい。）と思う。僕は家族にたくさん迷惑をかけている。たくさん、わがままも言った。今度は僕が家族に恩返しをする番だ。明日の事は誰も知らない。とても不安だ。でも今度の手術が終わったら、僕はゼロから出発しようと思う。



何度も何度も怖さを感じながらも大変な手術に勇気を持って立ち向かっています。そして乗り越えています。家族や仲間の支えや励ましが大きな力になったのです。子ども達も家族や友達のありがたさを知り、大切に絆を育んでほしいと思います。

夢に「川」がでてきたということですが、死の瀬戸際を体験したことのある人は必ず見るという「三途の川」だったのでしょ。すごい体験ですね。